

沢田ともふみ 議員活動報告



【また活気ある静岡に！】

日頃より、県政活動に対し、ご理解ご支援をいただき感謝申し上げます。
 コロナ禍の中で開催された東京オリンピックでは、水谷隼選手、伊藤美誠選手の輝かしい活躍が私たちに大きな感動を与えてくれました。また、県内選手のオリンピック、パラリンピックでの大活躍に明るい希望を感じました。新型コロナウイルス感染拡大にはまだ注意をはらっていかねばなりません。新たなブレイクスルー変異株の発生などにより重症者が増加しないよう、また医療逼迫が起こらないよう県として医療体制づくりを進めていきます。同時に、落ち込んだ個人消費の立て直しや経済循環を進め、活気ある静岡県を取り戻していきます。

静岡県議会議員 沢田 智文

活動報告

FM Haro で県政を語る

ふじのくに県民クラブの仲間とFMハローのラジオ番組に出演しています。働く仲間に関する課題や教育問題を中心に、現場の声を届けながら必要な施策を訴えています。
 FMハロー「イブニングサテライト」
 17:00~17:30
 12月18日(土)出演予定



厚生委員会副委員長として県民の健康確保に注力

厚生委員会は、お年寄りや子ども、障害のある人たちが暮らしやすい社会づくりや県民の健康を守る仕事、県立病院及びがんセンターの運営に関する調査、関連議案、請願・陳情の審査を行います。

AYA(思春期・若年成人)世代*1 のがん患者の課題に対する県の取組、妊よう性温存治療*2 に要する全国一律の助成制度の創設など経済的支援策や児童虐待対策に向けた市町との連携などについて県の姿勢や取組を質問しました。 *1 *2: 用語について裏面に解説

環境守る学習を視察

平山佐知子参議院議員と磐田市内の学校で「アース・キッズチャレンジ」を視察しました。子どもたちが家庭のリーダーとなって地球温暖化防止への取組を行うプログラムです。会派としても脱炭素社会づくりを強力に進めていきます。



4月19日

静岡の水を守る

岐阜県御嵩町へトンネル工事による残土問題について視察しました。命の水と同様、地域住民の安全な生活を守るため、会派の同僚議員とともに行動をしていきます。



7月12日

新たな浜松学園に期待を寄せる

浜松学園は、入寮生活を通じて障害者(身体障害者を除く)の自立に必要な生活指導や作業訓練を行い、2年以内の就職を目指す障害者支援施設です。誰もが生きがいをもって暮らすことができる社会づくりを今後進めていきます。



上記以外の活動報告

- 4月 ・ 中遠地協メーデー労福協フェスタ
- 5月 ・ 大井川の水を守る62万人運動との意見交換
- 6月 ・ 学校訪問・授業参観
- 7月 ・ 三方原学園訪問
- ・ 日本語ボランティア養成講座



- 8月 ・ 地区懇談 (県政報告や地域の課題)

- 9月 ・ 静岡県森林林業技術研究発表会
- ・ 緑茶とコロナウイルス研究シンポジウム (オンライン)

- 10月 ・ 地区懇談
- ・ 市内幼稚園・こども園運動会参観



FMハロー「イブニングサテライト」
 ふじのくに県民クラブ76人の議員が
 交代で出演しています。

9月県議会、一般質問に登壇!!

10月1日



9月議会(9月22日開会、10月14日閉会)での一般質問と答弁の要旨を報告いたします。全文、および動画は、静岡県公式ホームページに掲載されています。



小学校の教科担任制について

質問要旨

小学校における教科担任制について県教育委員会の見解は。

《教育長答弁》

教科担任制による授業は、学習意欲や学力の向上、多面的な児童理解、教員の負担軽減等の成果が報告されている。

国の動向を踏まえ、専門性の高い教科である算数や理科などを対象に教科担任制を更に充実していく。まずは、既存の加配教員の活用や市町教育委員会と連携して指導に当たる教員の複数校兼務を検討する。国に対して計画的な教員の増員を強く要望していく。

地域日本語教育について

質問要旨

地域日本語教育について、今後県としてどのように取り組んでいくのか。

《くらし・環境部長答弁》

基本的な日本語を習得できるモデルとなる地域日本語教室の運営を委託し効果を検証しながら対話交流型の日本語教室を県内に広げていく。今年度から財政的な支援制度を創設した。既に掛川市が取り組んでいる。10月から有資格者である日本語教師や学習支援者等の登録を開始する。

地域日本語教育の普及を通じて、外国人県民誰もが基本的な日本語でのコミュニケーションができ、地域コミュニティの一員として活躍できる社会の実現に取り組んでいく。

コロナ禍における児童の交通安全教育について

質問要旨

コロナ禍における児童の交通安全教育の現状と今後の方針は。

《県警本部長答弁》

関係機関・団体と連携して、オンラインの活用を図るとともに小学生の放送設備を利用した交通安全教室を開催している。「しずおか・安全横断三つの柱」の実践や、自転車利用等の注意を呼びかける等、対面によらない交通安全教育を推進している。また、県警ホームページやYouTubeの県警公式チャンネルで交通安全動画やツイッターで保護者に対して児童の事故防止に関する情報の発信や登下校時の交通安全やパトカーによるボイスパトロールを推進している。

表面より 用語の解説1

AYA(アヤ)世代とは?

Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人)のことをいい、15才から30才代までの世代をさします。

この時期にがんと診断されると、心身にさまざまな影響を及ぼすため、丁寧な配慮が必要とされています。

男女共同参画の推進について

質問要旨

性の多様性に関する理解を更に促進し、当事者を支援する必要がある。県の考えは。

《川勝知事答弁》

ホームページに「ふじのくにレインボーページ」を開設し、性の多様性に関する基礎情報等を発信している。本年7月から、11の図書館と連携し、啓発パネルの巡回展示を行っている。また、8月に「ふじのくにLGBT電話相談」を開始した。9月からは、交流会を月1回程度開催し、困難を抱える方の悩みを解消するとともに、孤立しない環境づくりを進めている。さらに、同姓カップルなどの関係を社会的に承認するパートナーシップ制度について、令和4年度を目途に、広域的な制度の導入を目指す。

質問要旨

男女共同参画社会の実現に向けた意識改革をどのように進めていくのか。

《くらし・環境部長答弁》

啓発パンフレット「パートナーとの今と未来を創造する家事シェアリング」を作成した。就職を控えた大学生を対象としたライフデザイン出前講座等において活用し、家庭における家事シェアリングを促進している。また、女性活躍の取組が顕著な企業の経営者とのミーティングを開催し、課題や効果的な共有するとともに、女性活躍に向けた行動宣言を検討している。来年2月には、会議を開催し行動宣言を広めていく。

働き方改革について

質問要旨

県庁における働き方改革は、どのような取組を行い、どのような成果が出ているのか。課題の解決に向けて、今後の取組は。

県庁における働き方改革《出野副知事答弁》

約5割が在宅勤務する等、多様で柔軟な働き方の実現に向け、テレワークの実践を加速化している。また、民間企業等で活躍する高い専門性をもった人材をスマートワークコーディネーターとして任用し、働き方の検討等、先進的な知見の導入を図っている。業務改善活動で4か所ですべて約2500時間の改善効果を生み出しているが年間の時間外時間が360時間を超える職員数は高止まりである。「断捨離宣言」を実施し、大胆な見直しを実践することにより管理職を念頭に意識改革に取り組んでいる。

学校における働き方改革《教育部長答弁》

モデル校を指定する等して継続的に取り組んでいるが、勤務時間の削減は十分とはいえない。本年度は各市町に推進校を置き、若手教員1名を「業務改善 < 夢 > コーディネーター」に指名した。学校全体で具体の改革につなげ、成果を各市町内、全県の学校に波及させていく。各推進校では、課題の洗い出しと方策決定と取組を進めている。また、推進校によるオンライン会議を実施し課題や解決策を共有している。県内全ての教職員に効果の高い事例を広めていく仕組みを年度内に構築できるよう検討を進めている。



表面より 用語の解説2

妊よう性温存治療とは?

がん治療の進歩により、がんの治療成績が改善するにつれ、治療後の生活の質を向上することの重要性が認識されるようになってきました。がん治療として行う、手術や薬物療法、放射線治療などにより、妊よう性の機能が低下してしまい、治療後に子供を授かることが難しくなる場合があります。

近年、不妊治療の技術を応用して、治療後の妊娠・出産の機能を治療前に残す「妊よう性温存」という方法が普及してきました。妊よう性温存治療とは、がん治療の前に、卵子や精子、受精卵、卵巣凍結を行い、がん治療後にこれらを用いて妊娠・出産を目指す治療法です。

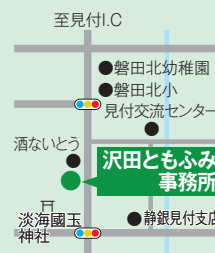


県政に対するご意見・ご要望等ございましたら、お気軽にご連絡ください。



静岡県議会議員

沢田ともふみ
事務所



〒438-0086
磐田市見付(二番町)2469
電話:0538-39-2500
FAX:0538-24-8128
メール:qqrf9nu9k@wind.ocn.ne.jp

